

離床センサー

Vol.122



現場レポート!



離床センサーをお使いの現場からレポートいたします!

西脇病院様の導入例と使用上の工夫について

【使用センサー】 コールマットN・ハイパー ×6台 / コールマット・徘徊コールⅢ ×2台
 ハイパー超音波・赤外線センサー ×25台 / 簡易型受信器シンプル ×19台
 徘徊ナビ名札 ×1台

Q. 離床センサーの使用基準を教えてください。

患者様の入院時や状態の変化があった時に行うアセスメントシートの評価や、日々のカンファレンスで患者様の様子を把握しながらセンサーの使用を決定しています。

また、週に一回行う医療事故分析チームのカンファレンスで状況を確認するなど、転倒・転落対策は病院全体で取り組んでいます。

Q. なぜ、「簡易型受信器シンプル」を選択したのか教えてください。

ナースコール報知とセンサー報知とを区別することで優先的に確実に対象者を介助することができます。

また、「簡易型受信器シンプル」を選んだのは、受信器に登録したセンサー以外は音が鳴らないことから、他のセンサーと設定が重複してしまう心配がなく使用できるからです。

管理台数が多いため、初期設定にメーカーや販売店の方に協力を得て使用できています。

さらに、「対象者ひとりにつき、ひとつの専用受信器」としたことで、報知音が鳴った場合にスタッフの誰が見ても明確に介助対象者が誰なのか分かり、使い易いというメリットもあります。



患者情報		医師情報		看護師情報		介護士情報	
氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当	氏名	担当
患者ID	患者氏名	性別	生年月日	年齢	床		
主訴		診療科					
入院日	平成 年 月 日	退院日	平成 年 月 日				
項目	特徴	評価スコア	入院時	退院時	転倒時		
A	年齢 70歳以上または9歳以下	2					
B	性別 男性=1, 女性=0	1					
C	既往症 転倒転落したことがある	1項目でも該当すれば2点					
D	感覚 視力障害がある	1項目でも該当すれば1点					
E	機能障害 痺れ感がある	1項目でも該当すれば3点					
F	活動領域 歩行に介助が必要である	1項目でも該当すれば3点					
G	認識力 判断力・理解力の低下がある	1項目でも該当すれば4点					
H	薬剤						
I	排泄						
		合計点数					
		危険度					

【アセスメントスコアシート】



【簡易型受信器シンプル】

ご紹介している工夫は、全ての現場で有効というわけではありません。患者様の容態や現場の状況をご確認の上、ご参考下さい。